

「エサウ、祝福を拒否される」

2021年03月16日

イサクは激しく身を震わせて言った。「それでは、獲物を捕って私のところに持って来たのは誰だったのだ。お前が来る前に私はみな食べて、彼を祝福してしまった。だから今や、彼が祝福されている。」（創世記 27 章 33 節～10 節） エサウは父に言った。「あなたには一つの祝福しかないのですか、お父さん。私を祝福してください。この私も。お父さん。」エサウは声を上げて泣いた。父のイサクは答えた。「あなたの住む所は肥沃な地からも／天の露からも離れるだろう。あなたは剣によって生き／弟に仕えるようになる。ただいつの日か、あなたは束縛から脱して／自分の首からその軛を解き放つだろう。」（創世記 27 章 38 節～40 節）

イサクが次男のヤコブを祝福し終え、ヤコブが父イサクの前から出て行くと、ちょうどその時、長男エサウが獲物を捕って、帰って来た。彼は、おいしい料理を作って、父のところに持って来て、「お父さん、さあ息子の獲物を食べてください。そしてあなた自ら私を祝福してください」と言った。イサクは、「一体誰なのだ。お前は」と尋ねると、「私はあなたの息子のエサウです」と答えた。イサクは激しく身を震わせ、「それでは、獲物を捕って私のところに持って来たのは誰だったのだ。お前が来る前に私はみな食べて、彼を祝福してしまった。だから今や、彼が祝福されている」と言った。もちろん、ヤコブの仕業だと知っている。エサウは父の言葉を聞き、苦痛に満ちた声で叫び、「お父さん、私を祝福してください。この私も」とせがんだ。イサクが、「弟が来て、だましたのだ。そして、お前の祝福を奪ってしまった」と言うと、エサウは、「あの男がヤコブと呼ばれるのは、二度もこの私を押しつけたからだ。私の長子の権利を奪いながら、今度は私の祝福を奪ってしまった」と地団太を踏んだ。そして続けて、「あなたは私のために祝福を取っておいてくださらなかったのですか」と問うた。イサクは、「すでに私は彼をお前の主（あるじ）とし、兄弟をすべて彼の僕とした。そのため私は、穀物と新しいぶどう酒で彼を養うようにしたのだ。息子よ、こうなっては、お前のために何をしてやれようか」と答えた。エサウは声を上げて泣き、父に、「あなたには一つの祝福しかないのですか、お父さん、私を祝福してください。この私も。お父さん」と懇願した。父イサクはエサウに答えた。「あなたの住む所は肥沃な地からも／天の露からも離れるだろう。あなたは剣によって生き／弟に仕えるようになる。ただいつの日か、あなたは束縛から脱して／自分の首からその軛を解き放つだろう。」ヤコブに与えた祝福とは真逆である。肥沃な土地、豊かに実らせる天の露からも見放される。剣による争いで身を立て、弟ヤコブに仕える者となる。ただ、いつの時か、あなたを束縛する軛から解き放たれる。父のエサウへの祝福は悲惨な言葉であった。エサウはこの言葉に沿って生きる者とされた。

イサクの息子への祝福に関し、不思議に思うことがある。祝福の譲渡は、母リベカの策略に従ってヤコブが行ったことで、明らかに「騙し」である。騙しの場合は、祝福の譲渡は無効になると、誰もが考えるのではないか。しかし、イサクの祝福は騙されたにしろ、譲渡は完結している。神の前での祝福は一回限りで、取り返しができない。イサクは父アブラハムが小羊の代わりに自分を屠って献げようとした体験を持っている。彼は、神に関わる信仰の出来事は厳しいものであることを知り、ヤコブへの祝福は実現していると宣言するのである。